

平成31年3月18日(月)

### 面接指導

2月もAO入試や推薦の試験が初めにあり、面接指導の最後に校長面接を行った。2月の後半になると、前期試験の面接指導が最高潮になる。私も及ばずながら、1日に何度も何人かの生徒に面接指導を行った。

その結果は、3月の前半までに明らかになった。

#### 面接指導の中で大切なこと

- 1 志望動機や学問への志を、全県下や日本全体の視点を持ちつつ、世代の使命感を構造的に説明できるか。

たとへば、医療人材において、人材不足は喫緊の課題であり、海外人材登用なども叫ばれている中、なぜ自分が名乗りを上げるのか。地域においてどのような医療を施し何をを目指すのか。学びの意識はどのように持ち続けるのか。具体的に自分はどのようにアプローチしていくのか。コミュニケーション能力を培うための視点はどのように持つのか。

- 2 学びの根底にある生命の尊厳と安心安全の意識をもちながら、学びの3要素(知識技能、思考力・判断力・表現力、主体的に取り組む態度)を意識した姿勢があるか。

- 3 向上心や向学心、ゆとりある充実した高校生活の状況がにじみ出ているか。

以上のところをよく吟味して、自分の言葉で語ることでできた者は、必ず合格していることが分かった。毎日これでもかこれでもかと小論文を書くための朝7時過ぎから夜の6時過ぎまで頑張った者も合格した。

1月末日で学校が自主登校になったが、毎日通ってクラスの仲間と競い合っていた者は、東北大学などの難関大学にこぞって合格した。

ともすれば塾中心の生活になりがちだが、学校を信じてこれでもかと勉強すればどこにでも入ると考える。なぜなら、塾の先生は、3月以降のことに何も責任を取らないが、高校の教員は少なくとも20年後くらいまで責任を取らねば、やっていくことができない。

20年後に、同じ高校に努める教員を高校時代から育成しておかねば、学校が続かない。磐城高校は、そのように成り立っていると心から思っている。

やがて、今年の卒業生も4年後には教員採用を受け、10年後には母校に帰り始める者もいると思っている。脈々と続くこの道は変わらない。

だから、授業をきちんとするのであり、黒板の板書もきちんとするのである。それを見て生徒が自分を追ってやってくるのだ。

私もそのようにしてこの道を選んだ。磐城の伝統がそこにある。

